

主体的な読みの力を高める「読むこと」領域の指導の工夫

～「理由」の構築に向けた詳述と相互説明活動を通して～

郡山市立富田中学校 教諭 齋藤 司

1 研究の趣旨

「平成27年度全国学力・学習状況調査に係る福島県の結果（概要版）」では、「読むこと」領域における考えの形成に関する設問を例に引き、考えの形成に課題があると指摘されている。前年度の結果も同様であったことから、自分の考えを形成させる指導の在り方は課題として浮き彫りとなった。この課題の解決に当たり、思考過程を構造的にとらえさせ、自分の考えを具体的にまとめる手段として「理由」の構築が必要だと考えた。

そこで、「理由」の構築を重視した指導の在り方を探り、生徒一人一人に論理性の高い考えを形成させることを研究の目的とした。説得力を増した考えの形成に至ることは、学びの有用感に結びつくはずである。そして、その有用感はその学びの意欲へとつながり、より深い読みを追究していこうとする主体的な読みの力を高めていくと考え、以下に述べるような仮説を設定し、本主題に迫った。

「読むこと」領域の指導において、以下の手だてを講じれば、新たな読みの獲得につながり、その獲得を土台にした主体的な読みの力を高めることにつながるであろう。

2 研究の概要

(1) 【手だて1】「理由」の構築に向けた詳述する場の設定

生徒に考えをもたせるときに、自分の思考の流れを可視化させる。その際、「理由」に特化した詳述ができるようにワークシートの工夫を講じる。このことにより、「理由」に焦点化した考えを形成させることにつながり、生徒が自分の考えをもつために「根拠」にどのような理由付けをして「解釈」しているのかを具体的に整理できるようになるはずである。

(2) 【手だて2】「理由」の構築に向けた相互説明活動

「理由」に特化した相互説明活動を行わせる。評価者には話し手、聞き手の「理由」が「根拠」と適切に結びついて「解釈」を導いているかに着目させて評価させ、フィードバックさせる。

生徒は「理由」について評価されることによって、自己と他者との思考過程の違いに気付くことができるようになると考える。「理由」に焦点を絞り、相互説明活動を行うことで、他者の考えの枠組みや傾向、自他の考えの筋道における相違を知ることができる。そのため、自分の思考過程において、より妥当な「理由」を構築することができるようになるはずである。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

① 【手だて1】「理由」の構築に向けた詳述する場の設定において、「理由」を構築していく際に、複数の「根拠」を関連付けながら詳述させていくことを意識させたことにより、自身の判断を契機として、俯瞰的に作品を読もうとする意識や叙述に何度も立ち返りながら自分の考えを形成しようとすることに結びつけることができた。

② 【手だて2】「理由」の構築に向けた相互説明活動において、「理由」に焦点化させた話し合いを行ったことで相互交流が活性化された。このことは、目的を明確にした対話的学びとなり、思考の広がりや深まりにつながる学びとなった。

(2) 今後の課題

① 【手だて2】「理由」の構築に向けた相互説明活動において、授業実践の中での相互説明活動だけでは評価観点を確実にもたせるまでには至らなかった。構築された「理由」の妥当性に関する評価を適切にフィードバックできるようにさせたい。また、論理的な考えにつなげるための質の高い評価となるように、具体的な評価観点を明示していく必要がある。